第３６回　向日市上下水道事業懇談会　議事録

日　時	：	令和元年１０月２４日（木）午後２時から午後３時半まで
場　所	：	上植野浄水場　２階　会議室
出席者	：	（委　員）７名
		（事務局）上下水道部長他８名
傍　聴	：	なし

１　内容

【平成３０年度　水道事業　決算報告について】

事務局説明

委員　　管の更新工事は、下水道の場合はマンホールからテレビカメラを入れてチェックされているが、水道もテレビカメラ調査を行い、悪い箇所を更新されているのか、それともまた別の方法で調査されているのか？

事務局　　水道の法定耐用年数は４０年であり、４０年を経過した管が市内に存在するので、漏水箇所の有無などの観点から優先度の高い順に、順次更新を行っている。

委員　　向日市は人口が増加していると思うが、給水量が減っている主な原因はなにか？また、前のアセットマネジメントで説明されていた計画は予定どおり進んでいるのか、進捗状況を教えてほしい。

事務局　　給水量の減少について人口は増加傾向にあるが、一人当たりの給水量が減っている。基本料金は増えているが、住宅の建て替えをされたりすると、節水機器が導入されることにより、給水量が減少し、従量料金が減少している傾向である。

事務局　　２点目の更新については、アセットマネジメントの当初は１０年で年間３億円をかけて更新を行っており計画どおり進んでいるが、いわゆる基幹管路の耐震適合率が、もともとアセットマネジメントを計画したときから、本市は低かったため、京都府の平均が３１．９％、全国平均が３８．７％に対して、本市は２４％であり、若干劣っている状況である。

　基幹管路は口径が大きいので、どうしても費用がかかってしまう部分があるが、今のアセットマネジメントに基づいて事業を進めていけば、全国平均にも追いついていくと考えている。

委員　　今の２点目の話は、計画した１０か年の計画の中では順調にいっているが、スタート時点が数字的に低いから全国平均とか京都府平均からは少し落ちるという意味なんですね。

　１点目は確かに人口が増えているけれど、節水意識が高まっているというのは、全国的な話だと思う。去年と今年の水道メーターを調べた結果か何かですか。

事務局　　去年と今年の比較をしている。

委員　　わかりました。それと大きな工場などが、節水などを行い、今まで水を使っていたけれど、使わなくなったなどが原因かと思っていた。

委員　　資料で収益的収支、資本的収支、両方あるけれども、収益的収支の方で収入と支出を引いた純利益、１億９千万円があるが、一般的に水道事業における純利益が出た場合に、一般的にどういう形の処理になるのか、資本的収支に充当するようなこともあるのか、あるいは留保をしておいて、何らかの形で活用するのか。

委員　　収益的支出には減価償却費なんかで現金を伴わないものがあるため、そうしたものを含めて、収益的収支のプラスは、資本的収支に充当されるっていうのが一般的ですね。

事務局　　生じた利益を資本的収支に充てるためには、建設改良や企業債の償還のための積立金へと処分する必要がありますが、概ねそうした運用が一般的なものです。

委員　　水道は基本的に日吉ダムの取水量が増えればいくらでもというと語弊があるかもしれないが、対応ができるものか、それとも向日市側の浄水設備能力に限界があって、取水量が増えてくると市の浄水場で足りない可能性もあるというように考えた方がいいのか、今の向日市の開発状況と人口の増え方では更に考えなくてはならないような感じはするが。

事務局　　給水量は、年々低下しているのが現実であるが、開発事業でどれくらいの給水量が伸びてくるのか、まだ予想はできていないところはあるが、浄水場の能力と京都府営水道の能力を合わせてある程度の需要が増えても賄うことができる。

委員　　管路更新の費用は、昨年度よりも少し減っている。以前これがピークになるのは、平成３４～３５年ぐらいまでと聞いていた。前のこの会議で、平成３５年ぐらいまでに更新すると基幹管路の耐震適合率が、３０％に達すると把握していたが、更新の量を減らすのか。 減らしてもこれが通常どおりで、アセットマネジメントに基づいて実施されているのか。

事務局　　意図的に減らしている訳ではなくて、請負差金などもあり、事業費が金額的に減っているので、減らしているように見えるかもしれないが、その点は、工事の兼ね合いなどもある。

【平成３０年度　下水事業　決算報告について】

事務局説明

委員　　下水の処理ですけれど、これから開発事業が増えてきて汚水処理の問題で、管を大きくしなければならないという問題はないのか。

事務局　　そもそもの計画の中で大きめに作ってあるというイメージを持っていただければよい。そこの地域も開発されるのを見込んで既存の管が入っている。

委員　　今年はずいぶん台風が多かった。台風は、今年１０号とか１９号とか関東の方へ行きましたが、関西の方に来ていて、この辺を襲ったらどうなるか、どこが危ないか。

事務局　　雨水事業というのは、１０年に一度降る雨を見込んで施設を作っている。ただ先日の雨は１００年に一度や５０年に一度の確率ということだが、本市でも災害が起こってもおかしくないと考えている。その中で防災担当課と話しているのは、みんなで助け合いましょう、土嚢で囲いましょうとか、避難してくださいとか、そういうソフト面の対策の中で行っていかなければならないということ。

　現段階も呑龍トンネルを作っていて、まだ１０年確率の対策もできていないというのが実情である。ようやく呑龍の南幹線ができあがると、市がそれに接続する施設を作り、完成できて初めて下流域の１０年確率の雨の対応ができたことになる。まずそこを順番に行い、これから降っていく雨に対して、どのように対応していくかを考えていく必要がある。

委員　　和井川１号線の工事で、それに対する単価調査の業務の委託費が３６０万円ということですか。

事務局　　そうです。工事を発注するに当たって資材単価を調査する業務にかかる費用である。

委員　　市が委託するときには自分たちで積算していると思うが、それは難しいか。道路な

どであれば簡単にできるでしょうけど。

事務局　特殊な工事や製品を取り扱うときに、条件により京都府から調査をしなさいと決められている。

委員　３０年度の決算をされたというので水道料金・下水道使用料の徴収率はやっぱり上がっているんですか？

事務局　徴収率は９５．７％です。

委員　料金を支払ってもらってない人は市役所としてはどう接しているのか。例えば生活困窮者やあるいは明らかに意志をもって払わない方について。

事務局　滞納されている方に対して、段階を踏んで給水停止をしており、そこでコンタクトを取らせてもらって、把握に努めている。

【京都府営水道経営審議会について】

事務局説明

委員　京都府営水道経営審議会の委員は、どのような方が中心ですか。

事務局　委員の中に本市に関係する人は入っておらず、各水系ごとの代表や学識経験者です。

委員　向日市の課題があると思うが、この間、日本経済新聞を見ていると、香川県の水道事業が全部一体になって、統合するとかいう話が出ている。小さい経営の中ではできると思うが。向日市は狭い地域の中に、人口が密集して、いろいろな問題を抱えていると思う。

また、当懇談会で料金改定は諮問されるのか。

事務局　料金改定の件は、また皆様にお世話になると思う。

委員　向日市の施設というのはかなり老朽化して、大規模な改善をしようと思うと、相当なお金も投資しないといけない。新たに同じくらいの水量を浄水するための施設にかかる予算はわかると思うんですね。当然そのことによって水道料金が変わってくるだろう。

なおかつ、今、先ほど言われたように、様々な市町村が合同でやらないといけない、または望ましいという時代になってきたときに向日市が、例えば府営水道に一本化して、市の浄水施設を止めるというようなことから、京都市との連携など、いろんな連携の組み合わせがあると思う。それをどこかで、何が一番合理的なのかというのを、市民と合意形成していくことを考えていかないといけない。

かつては向日市や長岡京市は地下水を汲み上げておいしい水と言ってたが、そういうおいしい水という評価の価値が、最近私らが見ている限りにおいては、もう水道に求めるんじゃなくてペットボトルに求めている。上水道に期待される市民のニーズがどの程度あるのか。本来、市民的に合意した、ガイドラインみたいなものが必要で、長期的に１０年２０年先を見越してやらないといけない。だから、水の利用や上水道の在り方みたいなものを、本来ならこの懇談会という中で、考えないといけない。

委員　これが向日市の水道ビジョンなんですよというように、１つの方向を目指さないといけないのではないかという気がする。先ほど議論になっていた下水道の方も、水害や災害が目白押しになる可能性が非常に高い。

例えば遊休農地があれば、一時避難的に遊水地的な利用をするように、土地所有者と契約を結ぶ案もある。基本的には農地で一時的に使ってもいいところについては、基本的には貯留効果を持たせるような、議論もやっぱりやっていく必要がある気がする。

委員　また、公園貯留とか駐車場貯留とかいうことであれば、普段は公園や駐車場だが、その面だけでまったく外に流出しなければものすごく大きな貯留になるからね。

委員　　だからお金かけないでもやれる方法は結構あるのではないかなと思っているんですが。

事務局　　浄水場は、確かに昭和４５年に建設してからだいぶ経ちますが、どこかで最後にはどうするか考える必要がある。

事務局　　京都府営水道の方からの受水は、１日１２，７００㎥という条件があるんですけれども、皆様使っておられるのが１日約１５，５００㎥。約３，０００㎥足りないということもある。

委員　　呑龍も、確かに強力な武器ではあるが、やっぱり台風１９号の災害を見ると必ずしも全て対応できるとは思いません。

当時立てた計画の中では正解だったと思うが、あれからどんどん地球温暖化が進んで、こういう時代になってきているので、呑龍トンネルをもって安心だっていう時代ではない。

委員　　今日はいろいろと話題が広がって、将来の構想も、全体の治水と、行政の在り方のところまでご提言いただいて、皆で今後の構想を考えていただければと。